

## 第2回 仙北市角館地域審議会会議録

開催年月日 平成19年11月15日(木) 午後1時30分  
開催場所 角館交流センター 第2研修室  
会議に出席した委員

会 長 佐藤勇太郎  
委 員 柏谷圭一郎  
" 茂木千代太郎  
" 草 薨 稔  
" 中村 清悦  
" 山本 陽一  
" 藤枝知恵子  
" 黒澤 美鈴  
" 三杉真紀子  
" 堺 研太郎  
" 藤原 達朗

会議に欠席した委員

副会長 経徳 紘一  
委 員 千葉 一明  
" 青柳 良信  
" 相馬 正男

会議に出席した職員

角館地域センター長 藤川 実  
総務部次長 倉橋 典夫  
企画政策課主査 阿部 聡  
総合窓口課長 清水 力  
総合窓口課主査 奥田 良一  
総合窓口課班長 本田 俊彦

書 記

清水総合窓口課長の司会により午後1時30分開会。

次に佐藤会長より「11月1日付けで市長より重点プロジェクトの推進並びに廃校舎の利活用に関する意見について諮問という文書を頂き、これを受けまして皆様にご通知申し上げたところでございます。諮問事項につきましてはご承知のことと思いますので、この件につきまして、答申までにどのようなスケジュールで審議したらよいかも含めまして、この後皆様からご発言をいただいて審議会を進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。」とのあいさつがありました。

議事進行は会長が行い、次に、倉橋総務部次長より資料に基づき案件説明

(説明の要約)

重点プロジェクトの進捗状況について

○平成19年度 定住対策プロジェクト進捗状況について

東京ふるさと会

6月10日東京田沢湖会、11月10日東京かくのだて会が行われ、重点プロジェクトに関する概要説明、企業誘致、定住促進について働きかけを行いました。西木会については来年2月下旬を予定しております。

空き家詳細調査

今年の初めから7月中旬を目途に、田沢地区、白岩地区、上桧木内地区の空き家調査を行い、調査が終了したことから8月10日に仙北市定住応援情報「えぐきてけだんし(空き家バンク)」を仙北市のホームページ上に開設し、空き家情報を公開しております。今現在、仙北市では9件の空き家情報があり、ページの中には、よそから仙北市に定住された方々のインタビューもありますので機会がありましたらご覧いただきたいと思います。

定住対策懇談会

年4回の開催を予定し、すでに3回開催しております。4回目を開催した後で一定の報告をいただくことになっております。

市有地・財産区有地の遊休地(工業用地候補地)の調査

今現在、仙北市に企業誘致の具体的な候補地が、西木地区の国道105号線沿いに1箇所あるだけで他にないことから、適地がないか検討を進めているところです。

産業振興対策委員会

商工課が主催して、企業誘致をテーマとする情報交換会の場とし、8月

1日に開催しております。

#### ふるさと回帰フォーラム

9月1日東京都において、秋田県主催の「あきたふるさと回帰フォーラム」が開催され、秋田県から4市町（横手市、鹿角市、仙北市、三種町）が「我がまち、自慢バトル」のPRコーナーに参加しております。

#### スローライフモニターツアー体験事業

10月12日～14日の2泊3日で実施しました。107名の応募があり、抽選の結果10組16名の方に参加していただきました。ほとんどの方が、首都圏にお住まいの60代前後（団塊の世代）の方で、1日目角館、2日目西木、3日目田沢湖というように、3地区を回る日程で実施しております。

#### 定住促進奨励金の検討

この奨励金については、できれば来年度予算に盛り込みたいと考えており、奨励措置について検討をしているところです。

#### 定住促進PRパンフレットの作成

これから検討していきたいと考えているところです。

#### テンミリオン計画プロジェクト実施状況

##### 観光振興計画について

観光振興計画の策定のため、観光課が中心となり7月5日（第1回目）、8月31日（第2回目）、9月26日（第3回目）と、観光振興策定委員会を開催し、分科会方式による施策の検討をしてまいりました。今後の予定としましては、11月中旬に第4回目を開催し、今年度中には観光振興計画案をまとめたいと考えております。

##### 受入態勢の整備について

9月19日に国体関係者（各県体協等）へ市内観光パンフレットを送付しております。また、合宿、会議等の誘致について、合宿補助金等の助成制度も含め検討していく予定です。

##### ノースアジア大学との連携

ノースアジア大学で、来年度から観光学科が設置されることから、県内の市町村と観光に関する提携を交わしております。仙北市でも5月28日、「観光に関する連携協定書」に調印しております。8月9日にはノースアジア大学の学生の協力をいただき、観光アンケート調査を実施しております。

##### 二次アクセスの整備

内陸線の松葉駅から田沢湖方面へのタクシーの運行を現在試験的に行っております。状況を見ながら、今後どのようにしていくのかを検討してまいりたい。

## 産業連携プロジェクト実施状況

### 直売所等における地場産農産物の販売促進

市内直売所16グループにアンケート調査を実施しております。

### 宿泊施設、レストラン等への地場農産物使用状況調査

市内の宿泊施設、レストラン等の飲食店を対象に、地場農産物使用状況調査を実施し、現在分析作業を進めているところです。

### 学校給食への地場農産物供給拡大

供給団体、各給食センターを対象に供給状況調査を実施し、調査結果をもとに意見交換を行い、今後の供給拡大、新規供給農家の増加を図りたい。

### J A 営農センターへのヒアリング及び農産物生産情報データベースの設置検討

定期的にJ A 各営農センターへのヒアリングを行い、農産物の生産状況等の情報を共有し、円滑な事業実施を図るとともに、農産物生産情報等のデータベース化については、来年度以降検討してまいりたい。

## 空き家情報バンク登録物件一覧

田沢地区3件、桧木内地区3件、角館地区・神代地区・生保内地区がそれぞれ1件ずつ、計9件の空き家情報が登録されております。これを公開したところ、現在3件の空き家利用希望者の登録があり、正式に契約したものはありませんが、中には現地を訪れて物件を確認するケースもありました。これからも、空き家の活用が図られるよう努めてまいりたい。

## 仙北市スローライフモニターツアー事業

10月12日～14日の2泊3日で行われたスローライフモニターツアー事業内容について記載しております。角館観光協会他関係団体の方々から協賛いただき、ツアーを開催することができました。次のページからはツアー参加者の感想を記載してあります。

## 秋田県定住促進プラン（抜粋）

秋田県でも団塊の世代対策等を踏まえ、定住促進プランを平成18年12月に策定され現在取り組んでいるところです。次のページに秋田県20

07年問題対策の基本方針がありますが、この下にある「今後10年間のシナリオと経済効果」の内容が県の基本的な考え方です。

シナリオ1、500万人の観光客誘致 交流人口の拡大

シナリオ2、その中から、10万人の2地域居住の促進 週末や季節限定で田舎暮らしを楽しむような二つの地域の居住者

シナリオ3、3万人の定住促進

という三つのステップを踏んで定住促進に取り組みたいというのが秋田県の考え方であります。仙北市といたしましても、県と同じような方針で臨みたいと考えております。その次のページからは、県が具体的に取り組む事項につきまして記載されております。広報活動でありますとか、市町村の取り組みに対する支援ということで、「定住促進フォーラムの開催」という事業があります。仙北市でも11月21日午前10時から伝承館で「仙北市の定住促進フォーラム」が開催されます。これには、県の「定住促進アドバイザー派遣事業」を活用し、講師の派遣をお願いしております。地域審議会委員の皆様にもご案内いたしますので、ご参加いただきますようお願いいたします。空き家情報等についても県、民間事業者、市町村が連携し、取り組んでいくことが望ましいと考えております。

#### 廃校の利活用について

最初のページには、全国の主な用途別の活用事例を参考として記載しております。次のページからは、現在仙北市で廃校、及び廃校予定となっている校舎の位置図と平面図になっております。旧田沢中学校と旧上桧木内小学校がすでに廃校となっており、旧田沢中学校については、田沢湖活性化センターとして条例化しておりますが、具体的な活用までには至っていないのが現状です。旧上桧木内小学校については、市役所の物品庫として文部科学省に届出しておりますが、ここについても具体的な活用までには至っていないことから、現在上桧木内地域の皆さんも活用方法について検討され、近々市と協議をすると聞いております。角館地域の角館東小学校と西長野小学校については、来年4月から廃校になるということで、今日、皆様からご意見をお伺いしたいと考えております。角館東小学校については、角館地区の社会教育団体の皆様から、社会教育施設として活用させていただきたい旨の陳情書が、市と議会に提出され、議会で採択されております。市でも、その方向で検討を進めているところであります。西長野小学校については、西長野地区の皆様説明会を開催しております。地域で何らかの形で使用できないかというご意見がございましたが、校舎の全てではないにしても、地域の皆様の要望に沿う方向で検討したいと考えております。これまでの経過を考慮いただきまして、委員の皆様から提言をいただければと思っております。

倉橋総務部次長説明後、議事（１）「定住人口３万人の確保と交流人口１０００万人の具体的な方策について」に対する質疑の時間となり、各委員から質問、感想、意見が発言されました。

## 定住人口３万人の確保について

（柏谷委員）

市名を変更するにはどのような手続きが必要か。

（倉橋総務部次長）

議会の３分の２の賛成で変更できる。

（草薨委員）

プロジェクトチームの担当者はとてもよく頑張っていると思います。このプロジェクトチームの今後の方向としては、どのようになっているのですか。

（倉橋総務部次長）

プロジェクト推進室は２年間ということに進んでいますが、その２年間の状況を踏まえて、再度検討することになるかと思います。

（草薨委員）

仙北市の人口は、合併当初から今日まで何人減少したのか。

（柏谷委員）

地域ごとに分かりますか。

（倉橋総務部次長）

今、資料を持ち合わせていないのでお答えできませんが、地域ごとの人口の変化は分かります。

（佐藤会長）

市として、このままの状態ですと定住人口３万人を切るのは、いつのことと捉えているのか、

（倉橋総務部次長）

総合計画策定の段階で人口推計をしておりますが、現状のままだと、ここ数年の内には、確実に３万人を切るのではないかと考えられます。

（佐藤会長）

出生数が減少していることと、老年人口が３０％を超えている現状では、自然動態で人口が減少していくことは避けられない状況の中、定住人口が３万人を切るのは現実の問題となっている。市が、具体的にこのような問題をテーマとする

ならば、危機感を持って積極的に対応していかなければならないという認識がもっと強くなければいけないと思う。

(柏谷委員)

自然動態以外で、人口が減少している原因としては何があるのか。

(茂木委員)

人口流出的なものだと思うが、その流出を防ぐことによって人口の減少を防ぐことができると思う。流出の原因として何があるのかを探ることが必要ではないか。

(山本委員)

新規学卒者の就職による人口流出がある。

(三杉委員)

保育の充実を図ることが大事だと思います。子供は欲しいけど2人、3人となると2倍、3倍のお金がかかるのが実情です。たとえば、具体的ではありませんが、「仙北市に住んで、子供を生み、育てたい。」と言われるような施策が必要だと思います。子育て世代の流出は将来的に見て、とても大きな問題になることですので、保育の充実を図るとともに、その世代が、働くことができ、安心して生活できる環境を整えることが必要だと思います。

(佐藤会長)

「仙北市に住んで、子供を生んで、育ててください」といっても、現状では、市として具体的に応えているようには見えない。

(草薙委員)

「合併当初の人口、今日までの人口推移、現在の人口、今後の見通し」等についての詳しい説明が欲しい。現状を把握、分析した上で、危機感を持って対応していかなければならない。

(堺委員)

以前申し上げたことについては、頑張っていて取り組んでいると思いますが、今後取り組みが必要な点について

1. 18歳人口の減少はとても大きな問題です。平成18年度、高校生が市内に就職した人数は、市内両校で約200人中9人しか残らないというのが現状で、この問題について、具体的にどう取り組むのか。
2. 若い人が定住するためには働く職場が必要ですが、職場の具体的な勧誘の実績がどれくらい上がっているのか。また、工業団地が無いことから、市として、工業用地を用意する必要がある。
3. 空き家バンクについて、地域でいろいろ苦労されていることは知ってい

ます。今後の課題として100～200の物件を持って対応していかなければならないことと、民間の不動産業者等と連携を図り、もっと幅広い形での情報提供（土・日・祝祭日等、相手のニーズに対応できる体制で）を進める必要がある。

4. 転入された方へのサポート体制が必要ではないか。私の町内にはIターン組と別の町内にUターンされた方がアパートに住んでいます。その人たちが一番困ったことは何かというと、行政の助けが無いままIターン、Uターンして、この町に住みたいと思ったときに、どの場所で、どのような人と交流できるのかを知らない人たちに対して、サポートしてくれるところが無かったことのようにです。角館地区は公民館機能が分散しているため、サポートセンター的な機能を持たせる体制になっていないので、サポートできる体制を今後どのようにしていくのか。このことが無ければ、定住される方は安心できない。アパートに住んでいるということは、まだ定住を決めかねている状態なので、サポート体制が無ければ定住化には結びつかないのではないかと。

（倉橋総務部次長）

1. 企業訪問や誘致企業に対するヒアリング等実施しております。今年の採用予定人数の把握等を行います。企業に対して、それ以上のことはしていないというのが現状です。取り組み方法について、今後検討してまいります。
2. ご指摘のとおりです。今後の課題として検討してまいります。
3. 県や国で、土地建物関係の業者の方々を定住対策の中に取り組みもうという動きがありますので、それを参考にしながら、市でも検討してまいります。
4. Iターン、Uターン等の定住対策として、ぜひ、相談窓口を設けることで検討してまいります。

（堺委員）

職場対策として、TDK仁賀保工場などで、協力工場が協和の辺りまで来ている。つまり、働く人が少なくなったため、こちらの労働力を求めている状況なので、仙北市としても、こちらの事情を説明し、積極的にTDKの誘致を検討すべきだと思います。

（草薨委員）

仕事を探している方々からの情報（仕事の申込等）により、その情報に対する情報（申込に対する仕事の情報等）をリアルタイムに発信できるようなシステムが必要ではないかと。

(中村委員)

農家の立場から言いますと、子供を、大学を卒業したら農業を継ぐことで都会に出してやりますが、実際問題として今の農業では生産者米価が安く、生活できない状況なので、どうしても都会で就職してしまうのが実情です。

(柏谷委員)

農業が基幹産業ではなくなった。

(佐藤会長)

人口の流入・流出には、何かしらの原因があるものだと思います。対策を考えると、その分析結果による要件によって、市民が立ち上がるべき課題なのか、行政がやるべき課題なのかが見えてくる。人口の減少は、集落の消滅につながる大きな問題です。たとえば、「年寄は必ず死ぬものだ」と思っていると、そこには目が届かなくなってしまう。そこで、「老人の寿命を5年延ばす」という具体的な数字を挙げて取り組む。その結果、僅かだが寿命が伸びた。これが、とても大事なことで、何かしらの施策によって、僅かだが、人口の減少に歯止めをかけることができたという達成感により、次の目標に進むことができる。これは、自然・社会動態の各要素にも言えることで、人口の減少に歯止めをかけるという視点からの施策も必要ではないか。

(山本委員)

「角館に住んでよかった」と言われるような、他の市町村と違う特色を設けることが必要だと思う。学校を卒業して地元に残れるようにするにはどうすればよいのか。若い人が残れば、結婚し子供も生まれると思います。若い人が居て活気があって、仕事が繁栄していくようなシステムの構築はとても大事だと思います。地域の人が安心して余生を送れるところは、一番人口が安定していると思う。

(茂木委員)

若い人を留めておくための働く場所が無い。働く場所で一番最初に考えるのは工場誘致ですが、これだけではないと思います。たとえば、農業を見ると、集落営農化が進めば、それだけ余剰労力が生まれます。その人たちの働く場所がなければ、ここで生活できない状態になるので、その集落でも、地域の生産性を考えた農業を考えていく必要がある。行政と農業関係者が連携をはかり、収入を得る方策を考えることができれば、ここにとどまって生活できることにつながると思う。

(藤原委員)

「仙北市の人口が、3万人を割ることになれば、このような問題があり、市民の暮らしにも影響する」といったものを、広報等に掲載して問題提起し、市民と一緒に考えていくことが必要ではないか。

定住に向けては、住宅等のハード面のサポートの他、他地域から移住する方へのソフト面のサポート（精神的ケアを含む）も大切ではないか。

駅東方面にアパートがたくさん建てられています。このアパートは建設と同時にすぐ満室になるようです。30代前後の若夫婦が多く、いろいろ相談を受けながら、「安い中古住宅は無いか」とよく聞かれます。「できれば角館の街中がいい」ということですが、私も専門にやっているわけではないので、なかなか探し出すことができない状況です。若い夫婦がアパートを出て自分の家を持ちたいという考えがあるようですので、空き家情報は都会の人だけではなく、地元の若い人たち向けにも情報を発信したら、定住にもつながるのではないかと。

（藤枝委員）

農業者の立場からお話いたしますと、実際にそこに住んで、そこを管理して、そこで生きていくということは大変なことです。それでもこちらに住もうと決心されてきた方には、行政のサポートも必要ですが、住んでいる地域のサポート（アドバイス）が重要ではないかと思えます。農業の大変さ、冬の厳しさを考えると、たとえば、本家、分家のような繋がりの中で、地域の習慣やさまざまな事柄について、助言をしてくれるようなサポーターがいなかったら、「ここに来て本当に良かった」とは思っていないのではないかと。

（黒澤委員）

子育てに対する補助等が、市町村によって違いがあるということから、「補助等の高い市町村に住みたい」と話しているのを良く聞きますので、子育て支援対策の充実が必要だと感じています。

妊娠したことにより、「会社をいったん辞めてくれないかといわれた」ということを聞きました。国、県でも取り組んでいる少子化問題ですが、子育て支援対策と企業（特に零細企業）に対する雇用支援対策を併せて考えていただければ、今よりは安心して子育てができることになり、定住にもつながるのではないかと思えます。

スローライフモニターツアーは、今回仙北市の良い面を見せた印象を受けたが、冬の厳しい時期にも開催することで、地域の実態を知っていただくことも大切ではないのか。

（佐藤会長）

皆様からヒントとなる貴重なご意見をいただきました。このことだけでも、もっと詰めていかなければならないと思えますが、時間の関係もありますので「定住3万人の確保について」を終了し、「交流人口1000万人の具体的な方策について」のご意見をいただきたいと思います。これは、仙北市が観光産業という大命題を掲げ、それを軸として、交流人口を600万人から1000万人にしたいという壮大な計画です。その実現のためには、どのような方策があるのか、皆

様からご意見をいただきたいと思います。

## 交流人口 1000 万人の具体的な方策について

(佐藤会長)

交流人口 1000 万人を達成するにあたって、これまでの観光資源を活用していくことはもちろんだが、新たな要件として何か考えているのか。また、具体的に実施している施策等はあるのか。

(倉橋総務部次長)

今後は、グリーンツーリズム等、短期滞在型観光客の増加を図りたいと考えております。すでに、観光振興計画策定委員会が開催され、施策の検討を重ねており、今年度中には観光振興計画案がまとまるものと思います。また、国の施策(文部科学省、農林水産省、総務省の3省が協力)で「農山漁村交流プロジェクト」を行うようです。これは、小学校5年生位を対象とし、1週間程度農山漁村で体験生活を行わせるというものだそうです。当面はモデル地区を指定して実施しますけれども、5年後には、全国の小学5年生120万人が、授業の一環として、違う場所へ行って生活することを国の施策として決めております。この施策は、仙北市に適していると思われまますので、秋田県モデル地区に申請する方向で検討しております。

(山本委員)

テレビで滞在型市民農園について放送していましたが、市で住宅と農園を提供して、農作業も体験できる、短期・長期滞在が注目されているようでしたが、秋田県でも、このような事業を実施しているものでしょうか。

(倉橋総務部次長)

似たようなことを行っているところはあります。

(三杉委員)

この事業について、どのように行い、どのようなメリット・デメリットがあるのか、それらをデータ化した資料等があれば分かりやすいと思う。

(草薨委員)

ノースアジア大学との連携ですが、以前、秋田市の新屋地区で、詳細な統計資料に基づき、ハード・ソフト面を大学で分析し、それぞれの面について、学生が地域の小中高生や町内を巻き込んで取り組んだ事例発表がありました。仙北市でも、その、良い面を生かすための、或いは、その課題にどう取り組むべきかを検討するための連携だと思うので、その効果を十分に生かすことができるよう期待

したいと思います。

( 堺委員 )

交流人口が1000万人を超えている観光地等はどこにあって、どのようなところで、どんなものがあるのか等、検討資料等があれば様々な意見が出てくると思いますので、次回まで準備していただきたい。また、毎年何万人ずつ増やして1000万人に持っていくのか。いきなり1000万人に持っていくとすれば、角館の観桜会の約4倍を集客することになり、大きすぎて想像すらできないという状態なので、市の基本的な目標を提示していただければと思います。

午後3時35分 休憩

午後3時50分 再開

( 佐藤会長 )

親善都市交流や商工会、JA等、仙北市以外と交流のある各種団体を利用して、積極的に仙北市に来ていただくよう働きかけることはできないものか。また、首都圏にはどのようなアピールをしているのか、その効果についてどのように捉えているのか。これからのアピールの場を、どこに求めていくのか等、皆様からご意見をいただきたいと思います。

( 倉橋総務部次長 )

先日、神奈川県横浜市の相模鉄道二俣川駅構内で、仙北市物産展「山の楽市」を3日間開催し、仙北市の物産を宣伝してまいりました。山の楽市は、横浜(相模鉄道株)～田沢湖(羽後交通株)間を高速夜行バス「レイク&ポート号」が運行(平成元年7月)された事により、旧田沢湖町が相模鉄道株の協力をいただき、平成7年から横浜で開催されるようになったものです。今年から商工会が主体となって実施しております。この交流を大切にしながら、効果的な施策の検討が必要と考えております。

( 堺委員 )

参加してみて、仙北市としての力(知名度等)を高める必要があると感じました。

( 佐藤会長 )

その交流を、この後どのように生かしていくことができるかが重要になると思う。

委員の意見の中で、市の名前を「角館市」に変更できないかという意見が多かったです。

( 三杉委員 )

武家屋敷通りに韓国、台湾、フィリピン等の観光客が増えているようですが、田沢湖の温泉地に宿泊する海外からの観光客数はどれ位あるのか。その観光客に

お土産を買っていただくような対策や、冬季の観光客を増やすための対策も必要ではないかと思えます。

(倉橋総務部次長)

宿泊客のデータはあると思いますので、次回お知らせいたします。お土産については、観光協会でも取り組んでいるようです。観光客については、県の観光誘客事業にあわせて、仙北市でも11月20日から台湾を訪問する事になっています。

(茂木委員)

お土産を買っていただくには、添乗員の紹介によってかなり左右されると思う。

(山本委員)

県内の観光客にも、もっと目を向ける事も大事な事だと思う。

## 廃校舎の利活用について

(佐藤会長)

西長野小学校と角館東小学校の廃校舎利活用について、皆様から活用のアイデアを出していただきたいと思えます。

(倉橋総務部次長)

西長野小学校については、地域の活動拠点として一部を使用させて欲しい旨の要望が出ていますので、その方向で検討したいと考えております。体育館については、市民体育館として利用していただければと考えております。角館東小学校は、社会教育施設的な活用を考えております。補助金の問題がありますので、廃止により校舎を取り壊すのではなく、地域住民や、一定の条件はありますが民間活用も視野に入れた活用方法を考えていきたいと考えております。

(茂木委員)

角館地域で考えると、雲然の農林業研修センターの体育館は、夜間の予約は常にいっぱいようです。西長野小学校の体育館も、今は車社会なので不便は感じないと思えますので、市民体育館として利用したらよいのではないかと。校舎については、中仙にある「青年の家」のように、会社の研修や合宿に使用できるような施設として考えることによって、地元の利用に加え、「かくのだて」というブランドを生かし、他からの利用も見込めるのではないかと。というような事も考えながら計画していただきたい。また、利用目的を一つに限定しないこともいいのではないかと。

(中村委員)

この前、視察で3年ぐらい前に廃校になっている田沢小学校を見せていただき

ました。一部は田沢出張所として利用されていましたが、他は特に利用されていないことから、もったいないと感じましたので、廃校と同時に用途を決めて利活用する必要があると思います。

(草薙委員)

美術館、伝承館、図書館の一連の機能を中心として、角館学習ゾーン(仮称)とし、角館東小学校、西長野小学校を加え、さらに、コミュニティ組織である各地域毎の集会所にもその機能を持たせ、市民ふれあい広場的活用を図る。というような事ができれば、両校舎とも生かされ、地域づくり、各種講座の開講等、楽しいものになるのではないかと考えますので、そのような方向性も考えていただきたい。

(黒澤委員)

学校で使用していた備品等はどうなるのでしょうか。

(倉橋総務部次長)

新しい学校で使えるものは持っていき、廃棄するものは廃棄、大事なものは鍵のかかる場所に収納しておく、と聞いております。

(黒澤委員)

仙北市には、パソコン技術を習得する講座、教室が少ないと聞いておりますので、廃校になる学校のパソコンを、サークル、会社、団体等の講習会や研修会等に使用できるようにしていただければと思います。

(佐藤会長)

市が考える施設の大まかな活用方針、施設の維持経費等についての情報提供が必要ではないか。その情報により、利用したい方たちが検討して具体化していくことができる。地域に必要な施設はどの部分で、誰でも自由に使用できる貸し出すスペースはこの部分で、企業にも貸し出しする。市で援助できる部分を明確にして、市の施設として地域住民に税金を還元する。というような基本的な方針が見えていないと、具体的な意見はなかなか出てこないと思う。

(倉橋総務部次長)

廃校になっても市の施設なので、基本的に市が維持管理するものと考えております。田沢の場合は、小学校を地域の交流センターとして使いたいという事で、改修に数千万円の経費をかけ、管理の必要性から田沢出張所を置いています。中学校の活用方法については、体験施設、農産物の加工所等様々な案が出ましたが、それを誰が担うのか、受け皿が決まらなくて現在に至っているのが現状です。

(堺委員)

冒頭でお願いしたかったのですが、故郷を出て他の地域に暮らすふるさと住民に対する「ふるさとタウン情報紙」を年3回程度発行できないものかと考えてお

ります。イベント、食べ物、ふるさとのおばあちゃん言葉、空家情報等、ふるさとに帰ってきたいと思えるような内容ではどうかと考えています。そこで、この情報誌を広報の別バージョンとして発行していただきたいと思いますので、検討をお願いいたします。

(佐藤会長)

時間になりましたので、今日の審議会を終わりたいと思いますが、2月の答申までに会議の内容を整理するには、この後2回の会議が必要と考えます。

1回目は、委員の皆さんのご意見を、落ち度なく盛り込むため、審議終了後に、皆様の意見をレポート(箇条書きでも結構です)で提出していただき、答申に向けて「定住人口3万人の確保」、「交流人口1000万人の具体的な方策」、「廃校舎の利活用」の3テーマのまとめ役として3人のチーフをきめていただきます。チーフには、2回目までにレポートを基に、答申を作成していただきます。

2回目は、各3テーマの答申内容についての確認をおこない、審議会の総意として答申をまとめたいと思います。

この日程と内容にご賛同いただけないでしょうか。

異議なく了承

次回は、1月10日頃の開催予定とし、午後4時50分閉会